

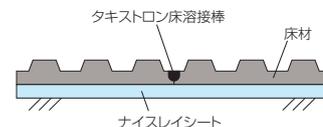
! 下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

ナイスレシート使用可否一覧

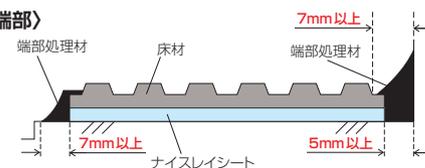
ナイスレシート使用可否一覧		ナイスレシート	
副資材	●タキシール#600	○	
	●エボシール	○	
	●タキストロン床溶接棒	○	
マンション	●タキストロンSL(スロープ用)	×	
	●ドレーンレール L・H・プラス・プラスG	×	
	●面台ガードC(テープ施工製品)	×	
	●スリップレール(バルコニー隔て板下用)	○	
階段	●タキステップ8W・6W・5W(蹴込一体タイプ)	×	
	●タキステップMW・3W(踏み面タイプ)	○	
	●テープ施工製品 タキステップ3S(編鋼板用) タキストロンテープ#355(編鋼板踊り場施工用) レッツステップSW・踊り場TR・蹴込CS・側溝用TG	×	
	●ベンチレシート(通気緩衝工法)	×	
	●コネクステップ Cシリーズ	○	
	●コネクステップ Dシリーズ・Jシリーズ	×	
	●蹴込部分用シートCW	×	
	●ステップドレーン	×	
	ブール	●タキストロンST・MX・MT	○
		●タキステップ3X・3K	○
●ジョイントシートS(継目止水工法)		○	
屋内	●タキストロンGK・ネオクリーン・ネオセーフ抗菌	○	
	●タキステップ7F(蹴込一体タイプ)	×	
その他	●クッション性のある製品 タキストロン プラスケアXG・MJ・WJ・CJ ナイスレシート	×	
	●NSマット、T-EVマット	×	
	●タキデッキ	×	
	●L字アングル抗菌	×	
	●アートカット(ナイスレシート用は裏面フィルムあり)	○	
	●点字タイル	○	
	●上記に記載がないタキストロン、タキステップ	○	

納まり図

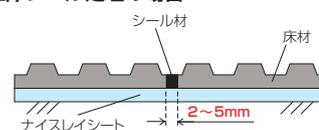
《継目部》溶接処理の場合



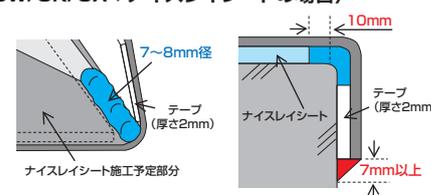
《端部》



《継目部》シール処理の場合



《3W/3K/3X+ナイスレシートの場合》



※記載内容は代表的な数値であり、あくまで目安です。製品の種類や下地の状態、温湿度によって変動しますのでご注意ください。

標準使用量	接着剤	段鼻隙間充填材		シール材			
		607	701	601	650	タキシール600	エボシール
3W+ナイスレシート	1200タイプ (蹴込なし)	58段/18kg 通常の2倍		6m/本 (7~8mm径) 通常の1.5倍	5.0段/本	10m/本 (幅7mm以上) 通常の2倍	3.0段/本
3K/3X+ナイスレシート	1800タイプ (蹴込なし)	39段/18kg		6m/本 (7~8mm径) 通常の1.5倍	3.3段/本	10m/本 (幅7mm以上) 通常の2倍	5.0段/本
シート+ナイスレシート		500~800g/m ² 通常の1.5~2倍				10m/本 (幅7mm以上) 通常の2倍	30m/2kgセット (通常の2倍)

＜伸縮目地について＞

伸縮目地の隙間は温度変化などによって変化しております。また内部の湿気は目地の隙間を伝わって表面へ排出されております。そのような伸縮目地の上に床材を張り付けた場合、伸縮目地に沿って浮きや亀裂を生じることがあります。そのため、伸縮目地などの動きが大きい下地への施工につきましては、伸縮目地の手前で床材を仕上げ、目地を露出させてください。

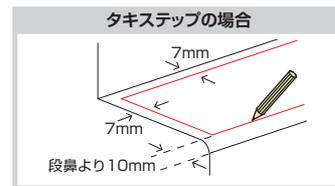
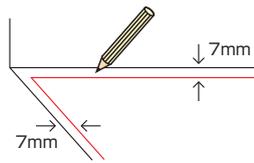
試験データ	P.196
法規関連	P.218
工法・下地	P.229
施工手順	P.247
接着剤・副資材	P.314
副資材品番一覧	P.328
メンテナンス注意	P.333

1. ナイスレシートの張り付け

※ナイスレシート施工開始から仕上げ床材の張り付け完了までの間に、降雨などの水濡れがないようにしてください。
(水濡れした場合は十分に乾燥させてください。)

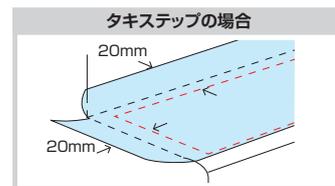
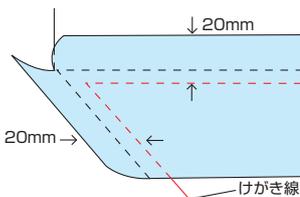
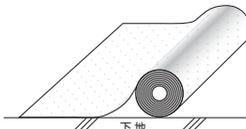
1. 下地・使用環境の確認

- 下地の清掃を行い、砂・塵埃などを除去してください。
- 下地の表面が平滑で十分な強度があること、塗料や油などの汚れが残っていないことを確認してください。
- 下地に湿気がある場合は十分に乾燥するまで養生してください。(必要に応じて下地の水分率を確認してください。)
- 施工開始から養生終了までの間に5℃以下(気温・下地)になる場合や、急激な温度変化や水濡れがある場合は施工できません。



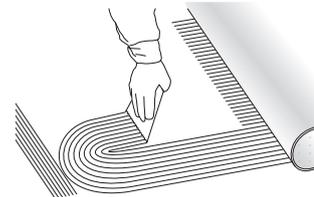
2. 仮敷き

- 仕上り寸法でけがき線を入れてください。
- 端部は5mm程度の隙間を空けてください
- 継目は隙間を空けず突き付けとしてください。
- ナイスレシートは巻き内側(穴のない方)を下にしてください。
- けがき線(仕上がり寸法)より20mm程度長めナイスレシートをカットしてください。



3. 接着剤塗布

- タキボンド#601の場合、下地上で混合を行わないで別容器で十分に攪拌してください。(下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- クシ目ゴテのクシ山が1/3以上摩耗した場合は三角ヤスリで目立てを行ってください。
- 仮敷きしたナイスレシートの半分(長手方向)をすれないように折り返し、塗布ムラが生じないように、クシ目ゴテで接着剤を下地に均一に塗布してください。(タキステップの場合はナイスレシートを取り除いて接着剤を塗布してください。)
- ナイスレシートの巻外面が上になるように施工してください。



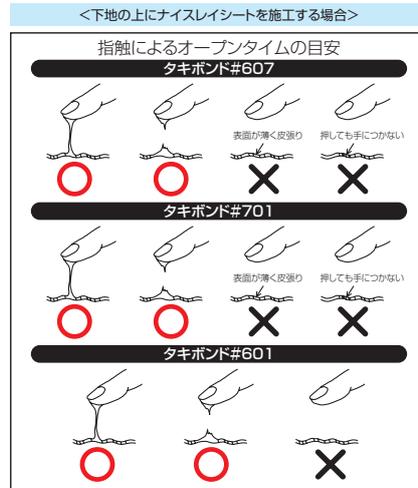
下地の上にナイスレシートを施工する場合の標準塗布量
モルタル下地：300～400g/m² 非吸水下地：250～350g/m²

4. オープンタイム

- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内にナイスレシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じ、オープンタイムを取りすぎて接着剤が乾きすぎると接着力が低下します。(オープンタイムは気温や通風状態によって異なります。)
- 5℃以下(気温・下地)では使用しないでください。(硬化反応が進みません。)

下地の上にナイスレシートを施工する場合のオープンタイムの目安(20℃)
※通常より短めになります。

	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	0～5分	5～10分
タキボンド#701	5～10分	10～20分
タキボンド#601	5～10分	10～20分

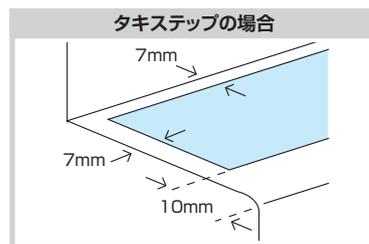
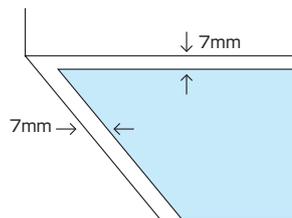


5. 張り付け・圧着

- ナイスレシートに空気を巻き込まないように、またシワが生じないように、中央から空気を押し出しながら丁寧に張り付けてください。
- シート張り付け後、直ちに空気抜きを十分に行い、床ローラーで圧着してください。
- ナイスレシートは張り込み直後から歩行可能ですが、構造上、接着剤が多少浸み出すことがありますので、靴底などに付着する場合があります。ご注意ください。

6. 壁際の裁断

- パーキリや直定規などを使用し、仕上がり寸法でナイスレシートを裁断してください。
- 下地に防水層がある場合、カッターナイフ等で傷を付けないように注意してください。
- 裁断後、端部と継目をハンドローラーで十分に圧着してください。



7. 養生(1～2日)

- 接着剤が硬化するまで1～2日養生させてから、次工程の処理を行ってください。
- 接着剤が硬化するまで、5℃以下(気温・下地)にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- 接着剤が硬化するまで、重量物の運搬やキャスター椅子などによる「しごき」を避けてください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

2. 仕上げ床材の張り付け (タキストロンの場合)

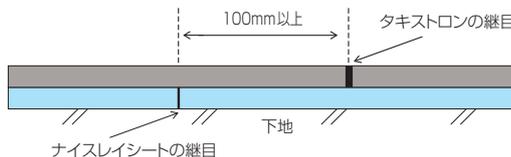
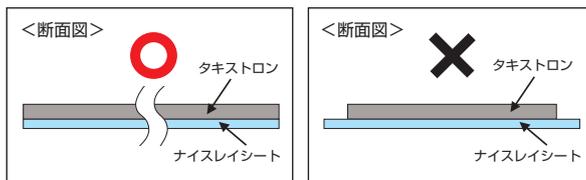
※ナイスレイシート張り付けの翌日以降に行ってください。(同日に行くとシート裏面の有機溶剤量が多くなり膨れやすくなります。)

1. 下地の清掃

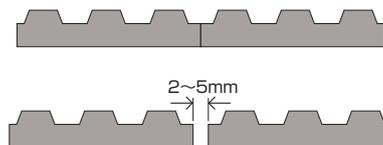
- ナイスレイシートの上の砂塵埃などを除去してください。

2. 仮敷き

- 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。
- 出来るだけ柄合わせを行いながらシートを仮敷きしてください。
- 出来るだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。
- 端部はタキストロンとナイスレイシートを同一の長さにしてください。
- シートの継目はナイスレイシートの継目と100mm以上ずらしてください。
- シートの継目はエンボスの谷間で行ってください。



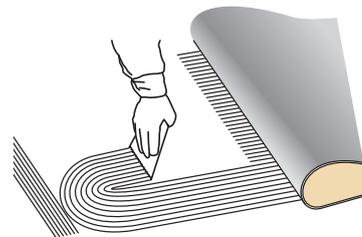
- 継目をタキストロン溶接棒で溶接処理する場合は隙間を空けず突き付けとしてください。
- 工法については、総合カタログでご確認ください。
- 養生(2～3日間)が可能な場合は、継目をタキシール#600でシール処理することも可能ですので、2～5mm程度の間隙を空けてください。



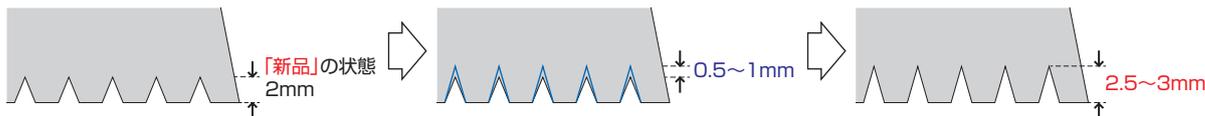
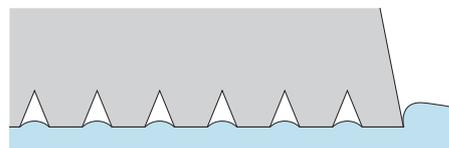
3. 接着剤の塗布

- タキストロンの半分(幅方向)をずれないように折り返して接着剤を塗布してください。
- エポキシ系接着剤の場合、接着剤はナイスレイシート上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。(ナイスレイシート上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。

ナイスレイシートの上にタキストロンを施工する場合の標準塗布量
300～400g/㎡



- ナイスレイシートの弾力性でクシ目ゴテの山が埋まり、接着剤の塗布量が少なくなってしまうので、ナイスレイシートの上に接着剤を塗布する場合は、「新品」のクシ目ゴテの山を0.5～1.0mm程度三角ヤスリで削って2.5～3mm程度の山にしてからお使いください。



4. オープンタイム

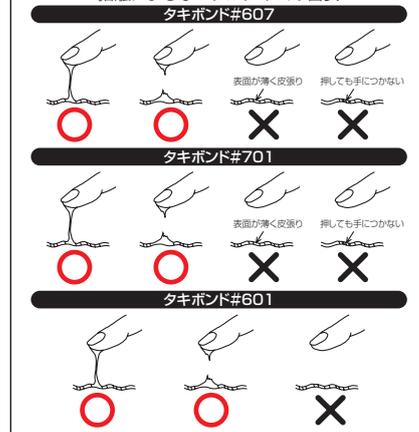
- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内にナイスレイシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じ、オープンタイムを取りすぎて接着剤が乾きすぎますと接着力が低下します。(オープンタイムは気温や通風状態によって異なります。)
- 5℃以下(気温・下地)では使用しないでください。(硬化反応が進みません。)

ナイスレイシートの上に施工する場合のオープンタイムの目安(20℃)
※通常より短めになります。

接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	5～10分	20～30分
タキボンド#701	5～10分	20～30分
タキボンド#601	10～20分	30～40分

<ナイスレイシートの上に施工する場合>

指触によるオープンタイムの目安



5. 張り付け・圧着

- シートに空気を巻き込まないように、またシワが生じないように、中央から空気を押し出しながら丁寧に張り付けてください。
- シート張り付け後、直ちに空気抜きを十分に行い、床ローラーやしごき棒で圧着してください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

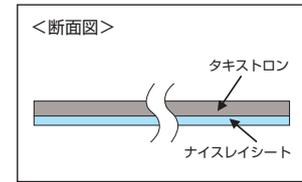
接着剤・副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

6. 壁際の裁断

- パーキリや直定規などを使用し、仕上がり寸法でシートを裁断してください。
- 下地に防水層がある場合、カッターナイフ等で傷を付けないように注意してください。
- 裁断後、端部と継目をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。
- 端部はタキストロンとナイスレイシートを同一の長さにしてください。

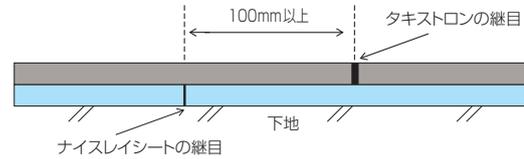


7. 養生(1~2日)

- 接着剤が硬化するまで1~2日養生させてから、次工程の処理を行ってください。
- 接着剤が硬化するまで、5℃以下(気温・下地)にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため) また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- 接着剤が硬化するまで、重量物の運搬やキャスター椅子などによる「しごき」を避けてください。

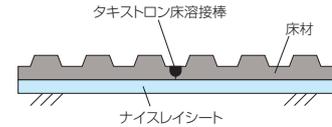
8. 継目処理

- 仕上げ床材の継目部は、ナイスレイシートの継目部と100mm以上ずらしてください。
- 継目処理の工法はナイスレイシートや仕上げ床材の種類によって異なります。**詳細は総合カタログでご確認ください。



溶接工法

- 継目をタキストロン溶接棒で溶接処理する場合は隙間を空けず突き付けとってください。

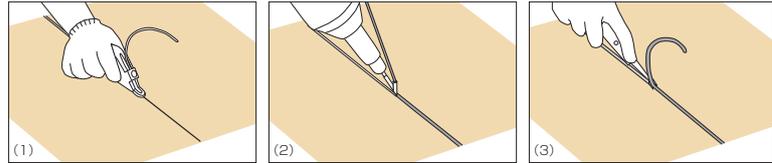


- (1) 接着剤が完全に硬化してから溝切り機*等でシート厚みの2/3程度の深さでU字溝を設けてください。
※推奨:「ユーキリスーパー」φ2.5mm
- (2) 熱風溶接機(ライスター)でタキストロン溶接棒を溶融させながら溶接ビードができる程度に溶接してください。

溶接条件の目安

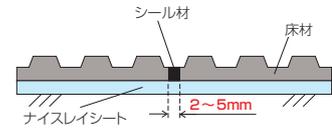
設定	アナログ:6~7 デジタル:400~500℃
スピード	1~2m/分

- (3) タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部を溶接棒トリマーなどで平滑に仕上げてください。



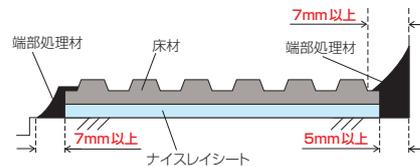
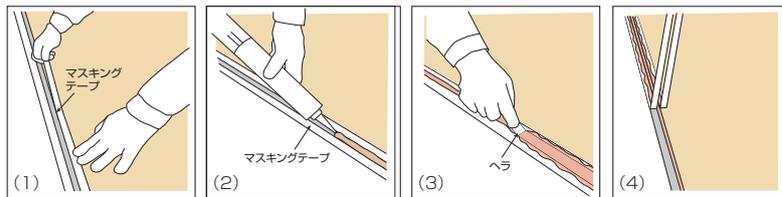
シール工法

- 継目をシールで処理する場合は2~5mm程度の隙間を空けてください。
- 養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。**



9. 端部処理

- (1) 仕上がりを美しくするためにマスキングテープで養生してください。
- (2) 気泡を巻き込まないように塗布してください。
(シールの幅が7mm以上になるように)
- (3) 充填後、直ちに仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。
- (4) ヘラ仕上げ後、直ちにマスキングテープを除去してください。



※伸縮目地がある場合は目地手前で端部処理を仕上げ、目地を露出させてください。(伸縮目地上にシールを打設すると、シールにひび割れが発生する恐れがあります。)

※エポシール、タキシールの仕上げ面は、硬化後多少痩せが生じます。

※施工時や養生中に湿度の高い場合や、結露、水滴などにより、シール表面の光沢に差が生じることがありますが、

端部処理としての機能に問題はありません。施工日が異なる場合は打継ぎ箇所を目立たない所にするなどご注意ください。

※エポシールは主剤、硬化剤、カラーマスターの混合が必要ですので同梱の取扱説明書を参照してください。

※**タキストロン+ナイスレイシートの二重張り工法のため、継目処理材は通常の2倍程度必要となります。**

10. 養生(2~3日)

- シール材が硬化するまで、2~3日養生させてください。
- シール材が硬化するまで、5℃以下(気温・下地)にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため) また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- シール材が硬化するまで、触ったり踏んだりしないようにしてください。(継目にシール材を使用する場合は特にご注意ください。)
- 養生中は土足での歩行を控え、汚さないようにしてください。(必要に応じて養生シートなどをご使用ください。)
- 屋内で使用する場合は換気を行い、引き渡しまでに数日期間を設ける等の配慮をしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤やシール材が硬化した後、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス・
注意
P.333